

先端研究拠点事業—国際戦略型—  
「ソフトマターと情報に関する非平衡ダイナミクス」  
セミナー・シンポジウム 派遣報告書

2014年 9月 12日

氏名(ふりがな)	宮崎 涼二 (みやざき りょうじ)
所属機関・部局・専攻内の所属分野	名古屋大学 大学院理学研究科 物質理学専攻 物理系
身分・学年 (学生の場合は指導教員名)	博士研究員
メールアドレス	<a href="mailto:ryoji.miyazaki@r.phys.nagoya-u.ac.jp">ryoji.miyazaki@r.phys.nagoya-u.ac.jp</a>
電話番号、FAX	052-789-2936

セミナー・シンポジウム名	Spin glasses: An old tool for new problems
場所 (国名・都市)	Institut d'Études Scientifiques de Cargèse (フランス・コルシカ島カルジェーズ)
派遣期間	2014年8月24日～9月7日
セミナー等の日程	2014年8月25日～9月5日
URL	<a href="http://www.lps.ens.fr/~krzakala/WEBSITE_Cargese/home.htm">http://www.lps.ens.fr/~krzakala/WEBSITE_Cargese/home.htm</a>

今回参加したのはスピングラス理論の応用をテーマとするセミナーで、ガラス系や情報科学、計算論など幅広い応用について議論された。私の現在の研究テーマはソフトマター系の一種のガラス的現象であるため、今回のセミナーは非常に勉強になった。ガラスを扱った講義はもちろんだが、ジャミングを扱った講義も興味深かった。私が研究で扱っている系と似た系のジャミングが議論されていたことが一つの理由である。私が研究している内容がジャミングではどのように見えるのか、といった今後の研究の指針を得ることができた。

また、私はこのセミナーで自身の研究についてのポスター発表を行い、参加者から有益なコメントを頂いた。さらに、他の発表者の内容から特にガラスに関連する新しい知見と新しい興味を得ることもできた。

今回のセミナーで発表内容とは別に印象に残ったのは、ガラス関連の研究におけるフランス・イタリアのグループの強さである。これは予想していた以上であり、強い刺激を受けた。

今回の派遣では、スピングラスに関連する分野の最近の発展を学ぶことができただけでなく、自身の研究分野においてどのようなグループ・人々がどのように進めているのかという研究活動の現状の一端を把握でき、非常に有益であった。